

樹木の生命力と人の活力

副会長 笠松 滋久

美しい新緑が街中にあふれ初々しい気持ちになる季節となりました。しかし世界に目を向けてみると、この原稿を書いている4月25日現在、ロシアによるウクライナの軍事侵攻が始まり2ヶ月が経過しました。多数の死傷者を出し壊滅した街の映像をみると心が痛みます。このGAISHIN NEWS 13号が発刊される頃には平和が戻っていることを願うばかりです。

ウクライナは「土の皇帝」とも呼ばれる世界でもっとも肥沃な土壌とされるチェルノーゼムが分布しています。黒く腐植に富んだチェルノーゼムは世界でもっとも生産性が高く優れた土壌として知られています。もちろん樹木の生育にも適した土壌となるわけですが、1986年のチェルノービリ(チェルノブイリ)原発事故の際もチェルノーゼムが汚染されてはいないかと気を揉みました。現在の戦争による被害も気がかりです。

廃墟となったウクライナの街並みの映像をみますと、攻撃のすさまじさと人間の狂気に震えます。建物が破壊された映像には傷ついた樹木も多く映ります。この地での落葉樹はようやく新芽が芽吹きそうな状況です。

廃墟の中で残った緑は人の心を少しでも癒してくれるのではないかと考えています。広島や長崎で被爆樹木が保護されているように、陸前高田市の奇跡の一本松が保護されようとしたように、樹木は荒廃した街においては希望のシンボルとなり癒しと希望を与えます。大火や津波を生き延びた木、焼け焦げた幹や枝から再び芽吹いた樹木は、被害にあった人々の心を癒し未来に向かって生きる活力のもととなったことでしょう。



私たち街路樹診断協会ではアーバンフォレストの普及推進を図ってきました。緑のもたらす各種機能を有効に活用すべく、健全な都市樹木の育成や樹冠の拡大を推進・推奨しています。樹木がもたらす暑熱環境改善、省エネ、CO2削減、雨水流出抑制、樹冠遮断、生物多様性などのメリットを通じて、人々の暮らしを豊かにしようと取り組んでいます。

樹木のもたらす機能面に焦点をあて、その効用を最大限に発揮するために都市樹木を健全に育む取り組みをおこなってきました。

世の流れはエビデンスを欲する傾向が強くなり、定量化できる結果を求めることが主流になってきました。もちろん科学的に検証された結果に基づき様々な判断や処置を施すのは技術者集団である当協会にとっては基本的な取り組み姿勢です。

でも、ウクライナの惨状をみるにあたり、定量化された機能面だけでなく、癒しや希望のもとになりうる定量化しづらい樹木の効果にもっと焦点を当てるべきではと考えさせられた次第です。

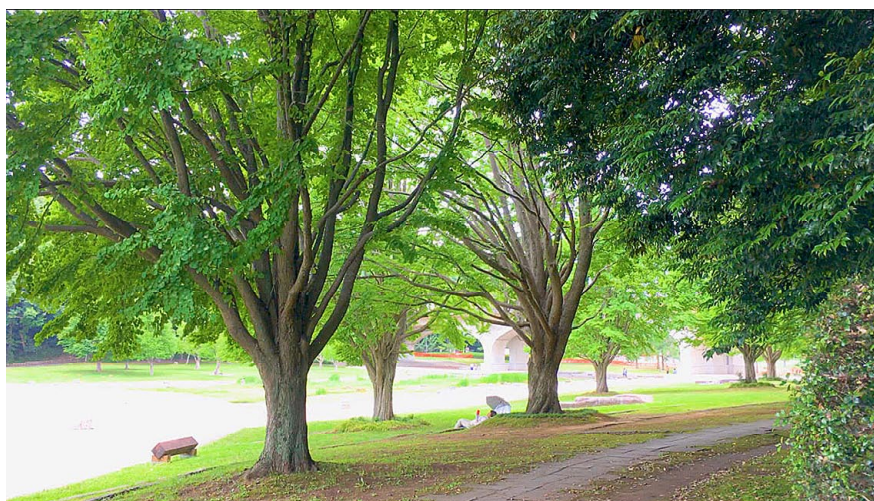
人の感情や生産性に関わるバイオフィリアの研究も盛んになり定量化の試みも進んでいますが、まだまだ十分なものではありません。悲しみや苦痛を希望の光にかえる能力を数値化するのは極めて困難でしょう。

でも、我々は事実としてそのような効果が樹木にあることを知っています。本能的に直感的に無意識に感じるこの感情は、人が本質的に持ち合わせる生物的感情でありバイオフィリアの本質的な効果と言えないでしょうか。



新型コロナウイルスによる新規感染者は現時点でも多く、収束の見通しは未だついていません。ウクライナの惨劇もいつになれば終焉するかわかりません。混沌とした世の中では様々な苦勞や苦痛がまん延しています。

生き生きとした健全な都市樹木が、窮地や困難を乗り越えるための希望の光となりえないだろうか。樹木の生命力が人の活力をみなぎらせることはできないか。そんな効用を発揮できる健全な都市樹木を、会員の皆様の尽力で少しでも多く未来に残せるように取り組んでいただきたく願う次第です。



◆◆◆ 25周年記念誌企画 座談会 概要 ◆◆◆

第2回「街路樹診断協会のあゆみ」(展開期:マテック博士講演会～法人化まで)

当協会が2023年に設立25周年を迎えるにあたり、25周年記念誌の発行を予定しており、協会の歩みを振り返り、記録に残すため座談会を開催しています。2022年1月26日に第2回座談会を行い、マテック博士講演会から法人化するまでの2003年から2009年の7年間、3つの国際講演会・シンポジウムの開催、九州支部・関西支部(当初は大阪支部)の設立、そして一般社団法人化と街路樹診断保険制度の開始と、まさに当協会の土台固めをした時期を語っていただきましたので、概要をお知らせします。

〔出席者〕 奥本寛、神庭正則、有賀一郎、大島渡、藤原圭介、松本幸生、永石憲道、上杉哲郎
〔司会進行〕 笠松滋久

◆2003年(平成15年)、マテック博士講演会

1996年夏、レジストグラフ研究会ができ、東京農工大学の草木演習林(群馬県)において伐採樹木の断面調査などレジストグラフを樹木診断に導入するためのデータを蓄積していましたが、同年に日本樹木医会からシャイゴ博士の「現代の樹木医学(要約版)」とマテック博士の「シュトゥプシの樹木入門」が、1998年にはマテック博士らの「樹木からのメッセージ：樹木の危険度診断」(誠文堂新光社)が、いずれも翻訳出版されています。そしてVTA(Visual Tree Assessment)の入門書として読まれました。当協会の最初の出版物「樹木のボディランゲージ入門」(2004年)はマテック博士の講演会の1年後の出版ですが、「シュトゥプシの樹木入門」をさらに充実させた内容で、在庫のない今でも時折、問い合わせがあります。

東京都の街路樹診断事業がスタートし、樹木診断の入門書も充実してくるなか、2003年が街路樹診断協会(任意団体)設立の5年周年であることから、神庭前会長は、アレックス・シャイゴ博士か、クラウス・マテック博士を招いて講演会を開き、樹木医、街路樹や公園樹木の管理者、研究者、樹木に関心のある一般の方にVTAを理解してもらいたいと考えました。シャイゴ博士はすでにご高齢で呼び寄せることは断念。マテック博士はレジストグラフの学術的な背景をつくっていたこともあり、ぜひともお招きしたいということになりました。当時、レジストグラフを東邦レオで輸入していたこともあり、同社とIML社のルートで招聘、世界でVTAをけん引する研究者・マテック博士の講演会を実現させました。海外の知見をいち早く取り入れ、そして国内に紹介し普及に努めるという活動の初めの一步でした。

マテック博士講演会は東京では「樹木からのメッセージに耳を傾けよう」、大阪では「教えてマテック」という副題で行いましたが、マテック博士の個性は強烈な印象を残し、樹木に対する深い探求心は講演会やエクスカージョンに参加した会員に大きな影響を与えました。

東京での開催はビッグサイトでしたが、この会場選定は講演会に対する協会の気概を示し、協会の英名(Urban Tree Diagnosis Association, Japan)は、初の海外交流であるこの講演会のために付けたものです。広報でも有賀さんは都市樹木という言葉を使い、当協会がリスクマネジメントや倒木危険判定という先を行く知見を持っている樹木医の集まりであることをPRしています。

マテック博士には名誉会員の盾をお渡しし、その後海外から先生方を招聘すると名誉会員の盾を用意するようになりました。

この講演会後は実業務の面でも効果があり、それまでは東京都だけだった街路樹診断業務が大阪や福岡など他の自治体にも広がりました。

◆2008年(平成20年)、国際シンポジウム「世界の樹木管理とリスクマネジメント」

2008年は街路樹診断協会(任意団体)設立の10年周年で、国際シンポジウム「世界の樹木管理とリスク

マネジメント」を行いました。トーマス・スマイリー博士はISA(International Society of Arboriculture)の樹木のリスクアセスメント技術でリーダー的存在。シンポジウムの目玉講演でした。神庭前会長がISAメンバーだったことから、倒木危険診断についての講演依頼をメールでやり取りして承諾していただきました。オリバー・ウィテックさんはマテック博士と同じドイツのカールスルーエ研究所の所属で法律の専門家。倒木事故と法律について講演していただきました。

国際シンポジウムと銘打つには、海外から2人では寂しい。ちょうど北京オリンピックの開催直前の時期、北京オリンピック準備の植栽総責任者である北京園林科学研究所のハン・リーリー所長を、笠松副会長が呼びました。他の講師とは演題の視点は違いましたが、タイムリーな緑の話題が入りました。

東京での会場は日比谷公会堂。当時、日比谷公会堂は、造園関係業界のカーネギーホールというような感じもあり、そこでの開催を実現し、大いにインパクトを与えました。

ちょうど根株診断手法を模索していた時期にもあたり、スマイリー博士の大阪中之島での根株診断方法の実地研修は、根株腐朽を確認する方法の技術的な大きな後押しになりました。

◆2003年～2008年頃の診断機器事情

1996年頃の樹木診断調査では、インパルスハンマーについてもレジストグラフと併用するなどして検証していました。インパルスハンマーは樹幹直径の両側にセンサーを取り付け一方をハンマーで叩き、もう一方のセンサーに振動波が到達する速度を測定します。計測結果が数値で示されますが、その数値だけでは評価ができないという問題がありました。基準値として健全な樹木が示す振動波の到達速度数が必要で、それは樹種や幹の太さのほか、水分環境などによっても変わるため調査研究の余地が残り、また腐朽空洞の範囲を把握することはできないこともあり実際の事業で使用する機器としては推奨されませんでした。

レジストグラフは貫入抵抗が波形グラフで示されるので腐朽空洞の有無範囲を判断しやすく、計測に要する時間も短いため、東京都の街路樹診断事業で使用する樹木診断機器として採用されて普及し、M型が10年ほど使われました。欠点は波形を記録するワックスペーパーが消耗品であることと、ギアの噛み合わせによっては壊れたら直らないことでした。

2003年頃、Fシリーズというガンタイプの機械に変わりましたが、まだメモリーはなくデータが蓄積できないタイプでした。2006年頃に、後ろに波形をデータで記録できるメモリーユニットが付いたものが出て、作業性も保守性も良くなりました。それまでは、波形を記録したワックスペーパーを紙焼きコピーして報告書を作成していましたが、その労力が軽減されたうえ綺麗な情報を添付できるようになりました。そしてPDシリーズは2010年頃に出てきます。

ツリーガンマは、2003年頃にはそのはしりといえるガンマ線を利用した樹木腐朽診断装置がありましたが、2006年頃、街路樹など都市樹木で使えるように国交省で開発を進めるにあたり、そのプログラムを組むための様々な質問に永石さんが答えたことがあります。

アーボソニック3Dやピカス、他にも音波による樹木のCT機器がありますが、それらは海外で開発生産され2007年、2008年頃から出回り始めていると思います。これらの機器は、ノートパソコンが普及しパソコンを外に持ち出せるようになったことが開発に大きく影響しています。ただ高額な機械なので国内で最初に導入するのは誰もが怖い。しかし誰かが試さなくてはと思った時期でもありました。

◆2003年(平成15年)、九州支部の設立

九州でも樹木医が増えてきたこともあり支部設立に向けて機運は高まりますが、2003年の秋頃、当時の日本樹木医会福岡県支部長の白石先生(九州大学)に、神庭さんと笠松さんが挨拶に伺ったことから話は展開していきます。九州支部を立ち上げるのに一番窓口になり尽力いただいたのは、内山緑地建設(株)の九州支店長古賀さんでした。古賀さんが音頭をとり、当初6社で九州支部がスタートし、事務局は九州グラウンド(株)の当時の社長の前田さんのもと、実務は松本さんが取り仕切るという体制でした。

また、当時福岡市職員の谷口氏が大阪のマテック博士講演会に来られ、福岡市でも街路樹診断の必要性をお感じになり、その事業化を中心となって進められました。マテック博士の大阪講演が、福岡では一つのきっかけになったのではないかと思います。

九州支部設立の翌年、2004年5月、支部主催の第1回技術研修会を福岡市の植物園で開催し、約80名の参加者があり、その後、毎年1、2回、技術研修会を継続して行い、これまでに沖縄県を含め九州全県を回っています。

街路樹診断は、九州支部圏内では福岡市からの発注が圧倒的に多い状況です。福岡市は2003年6月頃にNHK福岡放送局近くのケヤキが倒木しニュースとなったことがありましたが、その事故の以前にも何度も台風で、市内の街路樹が何千本も倒れたこともあり、谷口氏は事故時の渉外係、交渉される立場で、非常に苦労され、公共事業として倒木を未然に予防する診断の必要性を感じられていたと思います。福岡市はずっと継続して診断を行い、再診断、再々診断をも行っています。

☒

◆2004年(平成16年)、関西支部(当時、大阪支部)の設立

2004年、関西支部(当時、大阪支部)が設立されます。支部ができる以前、大阪では協会メンバーが少なく基盤が脆弱な状況でしたが、マテック講演会(2003年)を大阪でも開催することになり、講演会内容や運営体制の企画・準備について、日本樹木医会の大阪府支部と近畿総支部(現在の地区協議会)に協力していただきました。近畿総支部の澤田顧問にはご尽力いただき、大阪に在住・勤務する樹木医の皆様が主体となり、協会メンバーとともに役割を担っていただきました。

こうしてマテック博士講演会を成功させて程なく、浜寺公園の樹木調査・診断が行われることになり、そうした行政の動きに対する受け皿が必要となりました。樹木医がいる会社に呼びかけをして支部設立の説明会を開き、当初の支部メンバーは、(株)京阪神グリーン、(株)西川造園、小山造園(株)。支店メンバーで内山緑地建設(株)、東光園緑化(株)、東邦レオ(株)、(株)日比谷アメニスでした。

大阪支部が発足した年の暮れに最初の研修を行い、参加人数は80人ほどで、約半分が大阪府をはじめ自治体の関係者、あとは樹木医関係者、民間の企業の方でした。大阪府の数名の造園職の方が診断業務、危険度診断に非常に高い意識をお持ちで、とても熱心なことが、その後現在まで続いている支部研修の土台にあります。大阪府の職員の方には異動がありますが、異動先でも診断業務を動かしていくということで、診断業務が広がっていく状況です。支部としても、診断の役に立つ質の高い研修を提供しなければという思いで続けています。

2008年の国際シンポジウム「世界の樹木管理とリスクマネジメント」(in大阪)でも、支部の人数はまだ少なく、NPOおおさか緑と樹木の診断協会(2003年設立。設立当時の理事長は澤田氏)のマンパワーに助けられました。メンバーは広い範囲の方々と、各方面への発信をしていただき大阪色を出した盛況な会となりました。NPOおおさかとの共同体制はずっと続いており、街路樹研修会を8回共催しています。

◆2004年(平成16年)、街路樹診断保険制度を開始

2004年から街路樹診断保険制度が開始されました。それ以前から役員会で準備を進めていました。診断後に倒木が起きた時に誰が責任を持つのか、ということから保険制度の必要性の議論は始まりました。診断した樹木医、樹木医が所属する会社、どちらが責任を負うことになるとしても負担はかなり大きくなります。それを重く感じる会社が増えると協会も成り立たず、診断をする人も減ってしまうのではないかと。普通は保険があるのが当然だということで、公園関係の似たような保険を(株)フレネットHIBIYA(日比谷花壇のグループ会社)が東京海上火災(当時)の代理店として取り扱っていたため、当時の中沢事務局長が瑕疵担保できるような保険をオリジナルで作れないものかと、街路樹診断業務に特化した形で、あまりコストもかけられない状況も説明し、何度も相談しながら作りました。保険に加入できるのは協会員(会社)で、診断の責任は会社が負うことになり、街路樹診断の発注者(自治体)に対しては、保険制度を持っていることで業務委託先事業者としての信用を高めることになりました。開始以来、保険適用事例はありませんが、判定が記載されていないなど、問題のあるカルテには保険が適用されないため、引き続き正確な診断とカルテ作成が求められます。

それまでは樹木は自然に折れるものだという認識でしたが、初めて保険対象になった、非常に画期的なことです。この後、日本樹木医会なども保険制度を導入しています。

◆2005年(平成17年)、東京都の元気な樹木づくりプロジェクトチームに参加

2005年、東京都で元気な樹木づくりプロジェクトがありました。このプロジェクトは、街路樹からアーバンツリー、都市樹木へのきっかけになる最初の出来事といえます。

街路樹の管理や診断を担当した職員の方が公園に戻って、公園でも同じことをやろうと始まったものですが、街路樹のように危険だから伐採するのではなく、木を元気に育てていこうということで「元気な樹木づくりプロジェクト」という名前でした。

診断手法はほとんど同じですが、伐採するためではなく、元気な樹木をどんどん育てていこうという趣旨で、実際、公園や緑地、緑道、墓地、公立病院など地域の緑で樹木診断をしています。

◆2006年(平成18年)、東京都のマニュアル平成18年度版。5段階評価

2006年に東京都の街路樹診断マニュアル(平成18年度)が出ます。第3版になりますが、評価が3段階から5段階に変わりました。その理由は、良い(A)・普通(B)・ダメ(C)の3段階では、あまりにもダメ(C)な木が多く出てきてしまうので、良い(A)と普通(B)の間と普通(B)とダメ(C)の間にワンランク置いて、(B)を(B1)、(B2)、(B3)として全体で5段階とし、普通(B2)とダメ(C)の間(B3)の木を次年度に調べるか、またはレジストグラフによる診断を行うかということで、危険木の範疇を詳しくより分けました。すぐに伐採が必要が段階“5”(C)です。

5段階は熟練した樹木医にとっては良い評価方法だと思いますが、5段階になった頃、診断業務の受注競争が激化して、低価格で競争入札に勝ち、診断経験がなく協会員でもない未熟な樹木医が診断を行うようになってきました。そうするとBはB1、B2、B3となっているのに、真ん中のB2ばかりになってしまったのです。「どちらとも言えない」という答えです。未熟な樹木医はほとんどが真ん中を選択し、B2ばかりになってしまった。そうすると発注者である東京都は「良いか悪いかを調べて」と頼んでいるのに、ほとんど全部「どちらとも言えない」という答えになってしまう5段階ではダメ。良いか悪いかどちらかわかるようにということで、4段階になったわけです。4段階なら良いほうが上の2つ、悪い方が下の2つとなります。都内の街路樹は「健全」はあまりなく、ほとんどが「健全に近い」です。それで「健全か健全に近い(A)」とまとめて5段階が4段階になりました。(注:H12年版は3段階、H18・19年版は5段階、H25・26年・R3年版は4段階)

2006年には、東京都認定の街路樹診断講習会が始まりました。診断をする人が増えてきて、診断者の知識が重要になってきたということです。研修を受けた人でなければ入札の参加者としても不適格。しかし、東京都が研修を行うことは大変で協会に協力依頼され、以降、毎年続いています。

◆2009年(平成21年)、一般社団法人に。ボンド博士の講演会

2009年に任意団体の街路樹診断協会を解散して法人化し、一般社団法人となりました。この頃には、社会的な活躍の場も広がり、信用度が大事になっているということで、法人化は喫緊の課題でした。また、任意団体の街路樹診断協会を立ち上げたときからの悲願、奥本さんの強い意志もありました。もともと事業計画としてあげられていたことでしたが、滞っていたところ、街路樹診断士の資格制度を至急確立しなければならないという実情と法律が変わったこともあり、まずは法人化をと、大島事務局の大変な苦勞、努力のおかげで手続きができ、一般社団法人として活動に取り組むことになりました。

そして、目黒雅叙園で設立記念の式典とボンド博士を招聘して記念講演会を開きました。ボンド博士はi-Tree Streetsの先駆者で、講演タイトルは「都市樹木のリスクマネジメントと経済価値の情報管理」。都市樹木の加重・損傷のアセスメント、都市樹木の情報管理i-Treeなど、とても先進的な内容でした。2019年の国際シンポジウムはアーバンフォレストを前面に押し出しましたが、その発端であった方がボンド博士でした。協会はこの講演会で都市樹木をいかに広めていくかに傾注していて、この段階ではまだアーバンフォレストに行き着いていないのですが、ボンド博士の講演ではアーバンフォレストという言葉が入っていました。

ボンド博士の講演会は、東北地方における街路樹診断の普及と支部の設立などの思いを込めて仙台でも行われました。ボンド博士からは、2021年12月のISAバーチャルカンファレンスでの当内関西支部長の発表をお聞きになりメールを送っていただいています。

街路樹診断士新規認定、更新認定を終えて

街路樹診断士認定委員長 有賀 一郎

「街路樹診断士」は東京都の「令和3年度街路樹診断等マニュアル」で、街路樹診断の根株診断を含めた発注において必須の資格と指定されるなど、社会的認知が高まりつつあります。社会的認知が高まると同時に一方で、街路樹診断士の「診断の質」を保つ必要性が発生してきました。街路樹診断協会では、街路樹診断士による「診断の質」を保証するため、数年前から「資格認定の厳格化」を検討し、街路樹診断士新規認定と更新認定を実施してきました。

令和2年度(2020年)は、コロナ禍のため講習・試験等が中止となり、「資格認定の厳格化」の継続のため診断士資格の更新はレポート提出で代行するなどの対策を取りました。令和3年度(2021年)はコロナ禍の克服および、オンライン研修サイトの利用・文書の電子化を推進するように、資格制度の運営をしてきました。

新人を対象とする「街路樹診断士新規認定試験」は、令和3年11月25日・26日に「オンライン研修サイト」を利用し、座学講習(オンライン講習)と効果測定試験(択一式試験)を全国同時開催で実施しました。一方、街路樹診断士新規認定の実技講習・実技試験では、これまですべて本部(東京)で行ってきましたが、実技講習・実技試験は一箇所に集まる必要があり、コロナの感染防止対策と支部の自主性を尊重し、各支部(関東、関西、九州)において令和4年1月中に分散実施しました。これまで新規の実技試験では、提出されたカルテのレベルが低すぎて、認定すべきか否か内部で問題とされることもありました。そこで今回の実技試験では、実技の現場で各自作成した街路樹診断カルテを持ち帰り、業務で納品するのと同様に、テキストなどを参考にした上で清書し、提出するように変更しました。それでも各支部による審査と街路樹診断士認定委員会による審査において指摘事項があり再提出となった方もいました。その後、街路樹診断士認定委員会により全員合格認定され、令和3年度内に認定証発行まで終了させました。

経験を積んだベテランを対象とする「街路樹診断士更新認定」でも、これまでラフな更新申請書の提出が多くみられ、これも内部で問題となっており、厳格な審査が求められていました。しかし、令和2年度末では、コロナ禍で講習会が開けず、更新講習をレポート提出で代行しましたが、厳格な審査には至りませんでした。今回の2期、7期を対象とする令和3年度街路樹診断士更新認定審査では、新規認定試験と同様に「オンライン研修サイト」を利用し、座学講習(オンライン講習)と効果測定試験(講習の修了テスト)を、令和4年2月21日～3月22日の1ヵ月の間に、自由な時間に講習を受けられるオンデマンド方式で行いました。提出された更新申請書の合否判定は、街路樹診断士認定委員会を開催し厳格な審査を行ったことで再提出になった方もいましたが、令和4年4月中に認定証発行まで終了させました。

新規および更新認定審査のための街路樹診断士認定委員会は、関東、関西、九州の委員が参加できるように、基本的にオンライン(Zoom)により開催してきました。委員会の活動では、資格審査厳格化に向けた取り組みの継続や、診断士認定オンライン研修サイトやシステムの構築などを事務局や青空計画(協力会社)とともに検討してきました。特に新規、更新認定における書類の不備や合否判断では、かなり丁寧で厳格な審議・審査を実施しました。

今後の取り組みとしては以下のとおり。

1. 街路樹診断士新規認定審査
オンライン研修および実地研修についてスケジュール検討中。
2. 街路樹診断士更新認定審査
オンライン研修についてスケジュール検討中。
3. オンライン(Zoom)による診断士認定委員会の開催
街路樹診断士認定委員会は、オンライン(Zoom)による委員会の開催を継続する。
4. 「資格認定の厳格化」に向けた取り組みの継続
新規および更新の「資格認定の厳格化」に向けた取り組みを継続する。

6月30日まで募集!

第2回 各地のアーバンフォレスト写真コンテストを開催中

一般社団法人街路樹診断協会では「アーバンフォレスト推進」を活動ビジョンの一つに掲げています。

広報委員会では、協会員のみなさまに、アーバンフォレストについてより深い関心、理解を持っていただけるよう、アーバンフォレスト写真コンテストを企画しました。その第二弾として〈都市樹木〉を募集しております。最優秀賞・優秀賞・特別賞を用意しています。ぜひ、ご応募ください!!

—アーバンフォレスト写真〈都市樹木〉の視点—
身近な「アーバンフォレスト」に目を向けご応募ください。

- ◆日本の公園、庭園、公共施設や学校、社寺、商業施設など、都市の樹林（街路樹は今回の募集の対象外です）
- ◆緑陰効果が高い
- ◆都市景観の向上に寄与している
- ◆歴史がある、地域に愛されている
- ◆生育に適した整備が施されている
- ◆維持管理状況が良好で、管理者が大切に扱っている

【募集期間】 2022年4月1日～6月30日

【受賞者発表】 2022年7月中に発表、8月にホームページに掲載します。

【募集内容】 写真1枚、名称・地域と推薦の理由（簡潔に300字以内）

※写真は過去3年以内（2019年7月1日～2022年6月30日）に撮影したもの。

※写真はJPEGデータ、2MB以内。

【審査内容】 アーバンフォレストの視点の妥当性・推薦理由の説得力・写真の魅力。

【応募方法】 会員専用ページの専用フォームより応募してください。

<https://www.gaishin.com/members/urbanforest02/>

【写真の使用】 応募された写真は当協会が管理する各種メディア（ホームページ、研修教材、会報、PRのチラシ等）で使用することがあります。

【応募にあたっての留意事項】

- ✓ 応募できるのは当協会会員のみです。
- ✓ 現在ホームページに掲載されている都市樹木等でもあらためて応募することができます。
- ✓ 応募する作品は、原則として所属する支部の地域および支部がない地域のアーバンフォレストとし、他支部の地域や海外にあるアーバンフォレストは応募できません。（例：関西支部の会員は関西地域と関東・九州地域以外のアーバンフォレスト（仙台市や札幌市など）が対象）。
- ✓ 1人何点でも応募できます。
- ✓ 写真は自分で撮影したもの（未公開）に限ります。
- ✓ 合成や不要物除去などの処理をしての応募はできません。
- ✓ 濃度、彩度、ホワイトバランスなどの全体的な色調整やトリミングは可とします。

年 齢

信原 元樹(関西支部/株式会社グリーンメンテナンス)

樹木医として現場で作業をしていると、よく声をかけられることがある。参拝者、観光客の目には、大きな木の下でゴソゴソと幹や根、土を触っている姿は時に興味深い光景なのだろう。まずは何をしているのかの質問から始まり、私は木の状態、作業の内容を簡潔に答える。ここまでは何度か繰り返されたQ&Aなので比較的スムーズに会話は進む。しかしながら、必ずと言っていいほど、最後にはだいたい、その木の年齢を聞かれる。大きな木、古い木の正確な年齢を調べることは簡単ではなく、歴史、状況から考え得るおおよそを、いわれ等で答えるのが常だが、私はいつもここでとても困惑する。なぜなら、年齢を尋ねた人はおそらく、長寿であるその木の正確な年齢が知りたいのではないのかもしれないと思うからである。

長女は11歳、小学校5年生である。ある日、リビングのテーブルに手紙が置かれていたことを妻に聞いた。手紙には、「バスケットボールがしたいから、塾を辞めたいです。」と書いてあった。11年前、9月に生まれたばかりの長女と妻を置いて、筑波での研修に参加したことをふと思い出した。自分の意思をしっかり人に伝える年齢にまで成長したのだなと感心した。



魅惑の生き物

伊東 麗子(九州支部/株式会社九州開発エンジニアリング)

私は仕事で植物の同定を専門としています。それが高じて樹木医になったのですが、実は植物だけではなく「生き物」全般が好きです。高校時代、単細胞なのに高機能なゾウリムシに感動して、大学は生物科学科に進み、4年生では世の中の役に立つとは思えない繊毛虫の研究をしました。趣味はスキューバダイビングで、毎年夏休みは沖縄の慶良間諸島に家族旅行でしたが、近年はコロナ禍で地元天草の海に潜っています。海の中でも、サンゴの白化や生物相の北限化など、地球温暖化の影響がみられます。

樹木医会では、樹木以外の生き物には興味がない方が意外と多く、私のオタク話についてこられる樹木医さんはとても希少です。と知りつつ書きますが、ダイビングの目的のひとつは「ウミウシ」を観察することです。

ウミウシは漢字で「海牛」、英語で sea slug (海の名メクジ)、軟体動物の仲間では貝殻を捨てた巻貝です(分類の幅は広く、未確認の種も多い)。私がウミウシに惹きつけられるのは、何とんでもその多様な形態です。しかも、かわいらしい。数ミリの小さいもの、ヒラヒラやツノやイボがあるもの、色は赤・緑・黒・白・紫・黄など、これはもう神秘の世界です。和名も姿を反映して付けられたものが多く、インターネットウミウシ、ピカチュウウミウシ、パイナップルウミウシなど、なるほどと感心させられます。

少しでも興味を持っていただけたなら、その魅惑の生き物をネットで検索してみてください。



ウミウシ撮影中

多様なウミウシのほんの一部の種、紹介します



シロタエイロウミウシ



イガグリウミウシ



クロヘリアメフラン



ゾウゲイロウミウシ



ミヤコウミウシ



ムラサキウミコチョウ

再開発における既存樹木保全への貢献の可能性

小田 良彦(関東支部/東武緑地株式会社)

緑化関連産業において活動するなか、近年、既存樹木や環境調査の依頼が増加傾向です(写真参照)。再開発需要が背景にあり、時として悩ましい立場となることも珍しくありません。市民感情や地域景観の記憶(財産)としては保存、施工上の監理手法やリスクを考慮すれば伐採を提言しますが、実際の調査結果が明確な判断材料になるケースばかりではないからです。技術者は基本的に顧客利益優先の立場を取るわけですが、総合的に俯瞰することも必要になります。

昨今、SDGsといった単語を頻繁に見かけます。環境負荷の低減や生活安全性担保、財産の保護等々の考察が求められています。これら分野は、緑化関連技術者が社会的に果たす責務となっていますが、他分野の技術者と異なる言語では共有困難ですので、自らが積極的にコミュニケーション可能なレベルにまで研鑽を積むことも重要ではないでしょうか?通訳者を介さず、自身で伝え、聞くことがとても大切な手法になるからです。

皆さん同様に、他分野の方々から診断マニュアルについて、お問合せをいただきます。独り歩きが懸念され久しいのですが、定量化を求める技術者が、緑化ツールとして記載しているように見受けられます。我々は診断マニュアルの位置付けや重要性を再認識して、継続的な外部発信が求められていると思います。

時として「そこからですか?」と出そうになりますが、相手先はどのように受け止めているのか?考え方や方向性が相互理解できているのか?自問自答しながらプロジェクトを進めて行くホスピタリティも重要なのだと痛感しています。



日光レークサイドホテル建替計画に伴う植生調査

建替え計画による毎木・植生調査。国立公園内のため、環境省、文化庁との景観調整。着手前打合せで開業時の賑わいに思いを馳せれば切ない感情が湧いてきます。



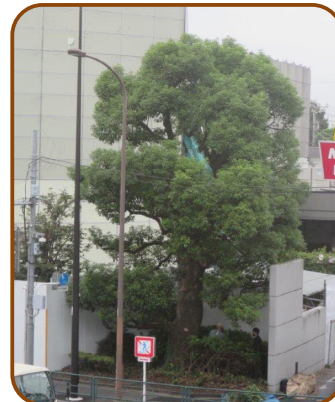
文京区旧元町小学校有効活用事業

関東大震災後、東京市(当時)による小学校と公園の一体整備事業。防災公園の先駆的都市計画。当時の建築物を一部保管しながら有効活用。埋蔵文化財調査との並行作業となり、樹木掘り取りには立会いが必要。



古河電工大磯荘植生調査

迎賓館として管理運営していた「旧大隈別邸・陸奥別邸跡の庭園」内の植生他資材調査。植物の他、石材や灯笼の重要度や希少性も提言。通常は立入れない場所にも入ることも役得。



世田谷区瀬田5丁目再開発事業

東名高速用賀インター、環状8号線交差点付近の再開発事業。既存樹は樹形の乱れが大きく、敷地南西の大径木のみ保存で行政と調整。

各委員会の活動報告(2022年1月~5月)

事業委員会

委員長：野上一志 副委員長：當内匡、吉岡威
委員：宇田川健太郎、本山圭一郎、安田卓宏

事業委員会では年度当初に、委員会を毎月1回のペースで開催していくことを設定し、昨年度よりも積極的に事業を推進していく体制を整えました。また、委員毎に事業計画の役割分担を行い、全員参加でコミュニケーションをとりながら活動しております。

5月には、会員の皆様のニーズを把握するためのアンケート調査を実施しました。皆様のご意見を今後の事業活動に活かして参ります。

また、7月29日には、「施工時の根系保護範囲」をテーマとしたシリーズ「アーバンフォレストを掘り下げる」webセミナー#4の開催を予定しております。

- 1月 7日 第2回事業委員会(オンライン開催)
- 2月25日 シリーズ「アーバンフォレストを掘り下げる」webセミナー#3
- 2月 4日 第3回事業委員会(オンライン開催)
- 3月 4日 第4回事業委員会(オンライン開催)
- 4月 1日 第5回事業委員会(オンライン開催)
- 5月12日 第6回事業委員会(オンライン開催)

技術委員会

委員長：石井匡志 副委員長：高村聡
委員：小島和夫、高田恵一、服部雅樹、堀内大樹

技術委員会は、1月から4月にかけて、貫入抵抗測定器の使い方に関する動画作成、切断された根の処理方法および直径と発根の関係について議論と調査を行いました。

1月25日・26日には、昨年(2021年)1月に試験区を設定したアゴラ造園(株)深谷圃場にて根系調査を実施し、処理方法により発根量に違いがみられることを確認しました。ホームページに続報を掲載していますのでご覧ください。調査については、5月16日・17日に(株)富士植木長浦圃場にて追加の実験を行いました。

貫入抵抗測定器の使い方に関する動画を近日中にホームページで公開する予定です。

- 1月14日 技術委員会(オンライン開催)
- 1月25日・26日 アゴラ造園(株)深谷圃場 根系調査
- 2月15日 技術委員会(オンライン開催)
- 4月 8日 技術委員会(オンライン開催)
- 5月16日・17日 (株)富士植木長浦圃場 試験区設定

広報委員会

委員長：萱森雄一郎 副委員長：笠松滋久
委員：向山直宏、伊東麗子、石田浩之

広報委員会の委員として、3月より関西支部の(株)日比谷アメニス大阪支店 石田氏が所属することになりました。新しい発想力と行動力を活かして広報活動を幅広く進めてまいります。

当協会設立25周年を迎えるにあたり、記念誌の発行(2023年9月)に向けて、具体的スケジュール指標を示しながら、座談会を重ねてきています。

アーバンフォレスト推進のため、第2回写真コンテスト(都市樹木の部)の募集をスタートしました。会員専用ホームページの専用フォームからの応募となります。審査委員会は、第1回よりも審査員の増員を図り、厳正に審査を行います。応募写真はホームページのアーバンフォレストマップに掲載するなど活用していきます。

ホームページの運用では、各種イベント情報発信、会員リンク付機能開始、特定商取引法に基づく表記改訂など

を行い、役所への販促を兼ねた動画掲載企画として大阪・堺市での録画を開始しました。新しい顧客開拓も含めての活動や、各委員会との緊密な連携を図りながら、協会の発展に貢献していきます。

- 1月26日 25周年記念誌 第2回座談会(展開期～発展期)(オンライン開催)
- 2月18日 第5回広報委員会(オンライン開催)
- 3月23日 第6回広報委員会(オンライン開催)
- 4月 1日 第2回アーバンフォレスト写真コンテスト(都市樹木の部)募集開始(6月30日まで)
- 4月26日 第7回広報委員会(オンライン開催)
- 5月24日 第8回広報委員会(オンライン開催)

街路樹診断士認定委員会

委員長：有賀 一郎 副委員長：山下 得男
委員：坂元 博明、三宮 洋、水野 優

街路樹診断士認定委員会では、「街路樹診断士新規認定、更新認定を終えて」(P7)で述べたように、街路樹診断士による「診断の質」を保証するため、数年前から「資格認定の厳格化」を検討し、街路樹診断士新規認定と更新認定を実施してきました。

令和3年度はコロナ禍のためオンライン研修サイトにおいて「街路樹診断士新規認定試験」と「街路樹診断士更新講習」を行いました。令和3年11月25日・26日に街路樹診断士新規認定試験の講習を行い、講習の修了テストは11月30日までに終わりました。

街路樹診断士新規認定試験の実技講習・実技試験

- 1月15日 九州支部
- 1月21日 関東支部
- 1月26日 関西支部

街路樹診断士更新講習・講習修了テスト

2月21日～3月22日 オンデマンド方式で実施

今後の取り組み

街路樹診断士の「資格認定の厳格化」に向けた取り組みおよびオンライン(Zoom)による委員会開催を引き続き行います。令和4年度(2022年)の街路樹診断士の新規認定と更新認定については、オンライン研修サイトを利用して行うことを検討しています。

<街路樹診断士認定講習テキストおよびオンライン研修コンテンツについて>

1. 診断士認定用のオンライン研修サイトの構築見直し継続
必要に応じ、診断士認定用のオンライン研修サイトの企画やサイト構築を見直す。
2. 診断士認定講習テキストの改訂
オンライン研修コンテンツの見直しやマニュアルの改訂等に合わせ、必要に応じ、新版街路樹診断士認定講習テキスト(2016年発行)の改訂、最新版作成の検討に入る。これには協会全体の取り組みが必要。
3. オンライン研修コンテンツ作成
街路樹診断士新規認定・更新認定では、講師各位にお願いし、新版街路樹診断士認定講習テキスト(2016年発行)をベースにした令和3年度オンライン研修コンテンツを見直し、最新版のオンライン研修コンテンツを作成する。

2022年1月～5月

関西支部

【研修事業】

第11回街路樹診断士新規認定試験の現地講習・現地研修は、各支部で準備し実施されました。関西支部では服部緑地において1月26日に現地講習・現地研修を実施しました。受験者は2名でしたが、支部会員および所属会社の樹木医にも参加いただき研修の一環としました。

現地講習・現地研修の準備作業は、1月12日に現地で診断研修用の候補木と試験用の候補木を選び、それぞれについて模範カルテを作成しました。

九州支部

【役員会】

第13期 第2回 幹事会

日時：5月31日(火) オンライン開催(Zoom)

【広報活動】

(公社)福岡県造園協会機関紙 エバーグリーン49号(令和4年1月) リレー掲載

「第27回 都市における樹木との共生」 能勢 彩美

【研修会予定】

- ・第13期 第1回 内部研修会 新型コロナの状況次第で開催を検討
- ・第14回 樹木危険度診断講習会(沖縄開催) 秋季に開催予定

本部

【常任理事会】

第2回常任理事会

日時：2月10日(木) 15:00～18:00

場所：オンライン開催(Zoom、事務局 港区高輪3-4-1)

【今後の予定】

- ・第3回理事会 6月開催予定(場所は未定)
- ・第3回常任理事会 7月開催予定(場所は未定)

◆お知らせ：第14回定時社員総会の開催について◆

第14回定時社員総会は、10月下旬に開催を予定しています。

■編集後記

先日、樹木医同期会をオンラインにて行いました。参加者の1人が、子どもたちに樹木の素晴らしさを伝え、樹木を好きになって欲しいが、どのような事を話せば樹木に関心を持って貰えるだろうかと悩んでいました。私は身近な事やスケールの大きな話に子どもは関心を持つと考えるので、日本や世界で一番大きな木を近くの建物で比較するのはどうかと思いました。他の参加者は46億年前の地球は生物が住めない星であったが光合成により何億年もかけ人が住める環境になったという話はどうかと提案してくれました。その話もまた興味を惹かれ、子どもたちにも魅力的に映るだろうと共感しました。最近では気温も上がり休日や昼休みは散歩や遠出をしたくなります。その際、皆様も同伴者や家族の方に樹木の素晴らしさを伝えてみてはいかがでしょうか。樹木の良さを一人でも多くの方に伝え関心を持ってもらう事はアーバンフォレストの更なる発展に寄与するのかなと思います。

(広報委員 石田)

一般社団法人 街路樹診断協会

関西支部

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-8-14 (株)日比谷アメニス内
TEL・FAX:06-6444-3990

九州支部

〒808-0124 福岡県北九州市若松区大字安屋900番地11
一般社団法人 北九州緑化協会内
TEL・FAX:093-741-0022

北陸連絡事務所

〒939-8253 富山県富山市新保271 (株)野上緑化内
TEL:076-429-1310 FAX:076-429-4374

台湾連絡事務所

一般社団法人 街路樹診断協会 台湾籌備處
台北市四維路176巷2號1樓
TEL:+886 02-2325-6911